

訪日・訪中を通じた中国ビジネスの拡大！

上海駐在員事務所

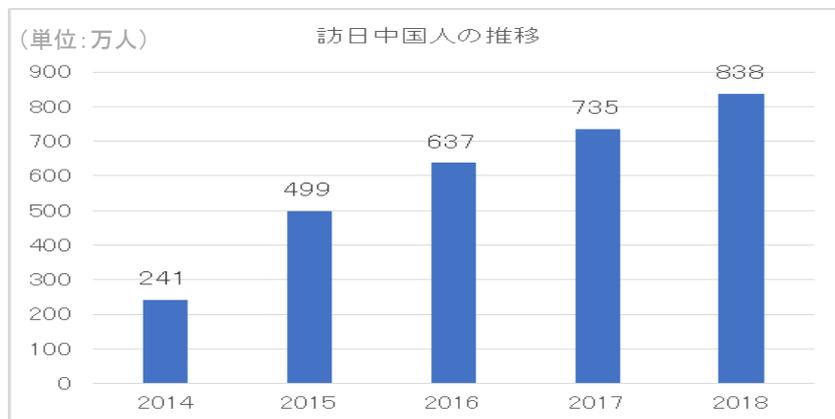
吉崎 直敏

「ニーハオ！」皆さま初めまして。2019年4月より上海駐在員事務所の所長として着任しました、吉崎と申します。本レポートでは、中国滞在中を通して見えてくる、「中国の今！」を皆さまにお届けさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

今回のテーマは、『訪日・訪中を通じた中国ビジネスの拡大！』と題して、私の所見をレポートさせていただきます。

私は2014年に約1年間、中国(上海市)に滞在していました。当時から日本製品を取り扱うお店やラーメンをはじめとした「日本のもの」は、既に上海市内に溢れていました。一方でそれらを利用するのは、どちらかと言えば中国に滞在する日本人が多い印象がありました。

2回目の滞在中で驚いていることは、「日本のもの」を取り扱うお店での中国人割合が5年前よりも明らかに増えていることです。その要因としては、訪日中国人が増加した(下表参照)ことにあるのではと考えています。訪日を通して中国人の日本への理解が深まり、それが小売業をはじめとした日本企業の中国ビジネス拡大に繋がっているのではないのでしょうか。



(出展: 日本政府観光局)

今日本では、「マー活(山椒等の痺れる味を食事に取り入れる活動)」や「キングダム(春秋戦国時代を描いた漫画)」等、中国を由来としたものが脚光を浴びています。

「マー活」の「麻(マー)」とは、中国の四川省を代表する味覚のことで、四川省の成都へは広島空港から上海を経由して行くことができます。また、「キングダム(実写版)」のロケ地の一つである横店影視城は上海市の隣の省にあり、どちらも比較的短い日程で訪れることができます。

上記は一例ですが、何かをきっかけとして中国を訪れる日本人(日本企業)が増加して欲しいと祈念してやみません。

世界最大の消費マーケットである中国で、貴社のビジネスを拡大したいとご検討中であれば、是非とも上海駐在員事務所にお声かけください！